

花と緑の銀行だより

173号 2009.9



ソバナ／魚津市

目次	・花と緑の提言.....	2	・技術講座.....	6
	・市町村の事業紹介.....	3	・この人あり.....	7
	・写真コーナー.....	4	・お知らせ.....	7
	・活動事例.....	5		



『花はどこへいった』

高岡法科大教授・県芸文協副会長

吉田 泉

流行り言葉でいう「アラカン」（アラウンド還暦）世代の人なら、『花はどこへいった』（1955年ピート・シーガー作曲）というフォークソングが世界中で大ヒットしたことをよく覚えておられるでしょう。

「花は全部どこへいったの？ 娘たちがすべて摘んでしまった。その娘たちはどこへいったの？ 若い男たちのところへいった」。歌詞では続いて「若い男たちは「兵士」へ、そして「兵士」は「墓」へいきます。時間がたち、やがて「墓」に「花」が咲くでしょう。その「花」をまた新たな時代の「娘たち」が摘む…。こうした輪廻のような循環を暗示して歌は一番に戻って終わります。

美しい旋律で、その上まだ中学生だった私にも分かる平易な英語によって、詩の美しさも辛うじて味わうことができたように思います。作曲されたのは1955年ですが、ヒットして私たちが聞いたのは1962年ごろでした。その後この歌は1968年ベトナム戦争の「テト攻勢」の際に再び、しかし今度は反戦歌として、爆発的に流行しました。2003年のアメリカ軍のイラク侵攻のときにもマスコミがこの歌を喧伝しています。2008年には歌と同名タイトルで日本人の女流監督が映画を撮っています。

1955年にピート・シーガーがこの曲を僅か20分で作った時には、ショーロホフの『静かなるドン』をヒントにしたというから、少し驚きでした。『静かなるドン』では「葦の葉」を「娘たち」が摘み「ドン川のコサックたち」のところへ持って行き、その「コサックたち」は「戦争」に行った、という連鎖で詩が続いています。ただし歌にあるような「墓」から「花」へという「一周」にはいたっていないようです。

ところで私が今回こうして『花はどこへいった』の話をし始めたのは、反戦歌の話をするためではありません。私たちが中学の時に覚束ない調子でこの英語の歌を口ずさんでいたのは、どうもいわゆ

る「反戦」のためではなく、純粹にその歌の「心」のためだったように感じます。その後反戦歌として歌われているのを聞いて「これは反戦歌だったの？」と何か自分の不明の部分指摘されたような微妙な気分にもなりました。

もちろん「花」が「兵士」の対極にある戦争ではなく平和のシンボルであることはよく分かりますが、問題は、最初にこの歌に接した時、私は「反戦」のことを考えたわけではないという点です。

「花」に意味を込めるのも人間なら、「花」に意味を込めない自由もあっていいのではないのでしょうか？「反戦歌」となったのは多分時代のせいも大いにあるのでしょう。しかしそれ以前に、この歌には何かもっと大規模な自然のうねりの摂理がロマンティックに表現されていたのではないのでしょうか？例えば『聖書』にあるような、あるいは『古事記』の物語にあるような…。

ここまで言うておきながら、『花はどこへいった』に多くの人々が感じ取った「平和への渴望」という側面を、私はもう一度確認したい気がします。やはりどうやら、この歌の「反戦歌」という一面は否定できるものではないようです。無数の絶望する人々がこの歌によって救われたに違いないのです。つまり、もともとこの歌にはこういう側面からも人々の「心」を救う力が宿っていたのです。

不思議なものですね。でも「反戦」と言おうが言うまいが、実は、歌の、そして「花」の力には変わりがないはずで、私に言わせれば、歌や「花」の奥にある人の「心」に、あらゆる力が内包されているように思えます。このあらゆる力のうちには田舎の一中学生の叙情を揺さぶる力もあれば、戦争反対を訴える力もあったということなのではないでしょうか。

この歌を最初に流行らせたキングストン・トリオの一人がこう言っています。「僕たちは特に何も考えることなく、ただ美しいと思った歌を歌い始めただけだ」と。



花と緑の銀行 小矢部支店について

小矢部支店長

小矢部市長 **桜井 森夫**

今年は、梅雨明けも遅く、真夏の日差しとはほど遠い空模様が続きました。

夏と言えば子供の頃、寝ぼけ眼をこすりながら朝顔の花を横目にラジオ体操にかよい、ひまわりの大輪を見ながら野山をかけめぐったことを思い出します。

花は、いつまでたっても記憶の中に鮮明に残るものだと、あらためて感動をおぼえました。

小矢部支店も花と緑の銀行のご支援をいただきながら、現在頭取数13名、グリーンキーパー約190名と大所帯に成長しました。

当初の活動は、本店から配られる花苗を学校、保育所、公民館などの公共施設の花壇に植えてもらい、年1回の花壇コンクールを行うだけでした。しかし、今では市内いたるところで花を見られるようになりました。

そのきっかけとなったのが、平成6年にオープンしたクロスランドおやべの建設だったように思われます。約13haの広大な敷地には、高さ118mのタワーをはじめ多目的ホール、芝生広場など様々な施設があります。緑の森もまだ幼いながらもありましたが、そこには花が足りませんでした。



建設に伴い、地元松沢地区の女性を中心に「野ぎくの会」が発足し、小矢部市を訪れた人たちに気持ちよく楽しい思い出に残る癒しの空間を提供しようと、クロスランドの周辺に、毎年すばらしいフラワーラインを育てていただいています。

また時間同じくして、藪波地区に「メルヘン花工房」も誕生し、メルヘンのまちにふさわしい環境作りとして、みごとなフラワーラインを育てておられます。

小矢部市には、この他にも多くの団体があり、「メルヘンおやべ」を一所懸命盛り上げていただいているところです。



さて、今秋、国道8号に「道の駅メルヘンおやべ」がオープンします。市の名産品、特産品、農産物等が販売され、展示コーナーでは、桜町遺跡の出土品等を展示します。

小矢部支店でも活動のひとつとして小矢部市の特産であるバラの植栽を行います。訪れた人たちのからだと心の、しばしの休息の場となることを願っています。

冒頭で述べましたように、花はいつまでも記憶の中に鮮明に残り、いつ見ても感動と安らぎを与えます。

今後とも花と緑の銀行の活動推進に努めてまいりますので、皆様方のより一層のご支援をお願い申し上げます。

平成21年度
富山県花のまちづくりコンクール
入賞花壇写真



☆学校花壇最優秀賞☆
黒部市立 宇奈月小学校



☆幼稚園・保育所花壇最優秀賞☆
射水市立 小杉西部保育園



☆一般花壇最優秀賞☆
東般若花と緑の推進協議会(砺波市)



☆花の道最優秀賞☆
宮ノ下村づくり会(富山市)



☆個人花壇最優秀賞☆
宮野裕子(砺波市)

ふるさと自慢の花壇

—大すき大久保！四季を彩るふるさと花壇—

富山市立大久保小学校

校長 五十嵐 俊子

大久保小学校の花壇活動

神通川の中流域、旧飛騨街道に沿って開けた大久保。大久保用水の開削に伴い集った人々が荒地を沃土としました。地域の伝統文化や教育熱の高い人々に支えられて大久保小学校があります。大久保小学校（児童数481名）では、長年やさしい心を育てようと花づくりに力を入れてきましたが、平成20年度から、新たな花壇活動をスタートさせました。「『きれい』より『教育の場』であること。学校花壇を教育の場に位置づけ、地域性を生かしたオンリーワンの花壇に。」と教えてくださった笹井氏。「やってみたいと思わせることが大事。本物をつないで世界を広げよう。」と教えてくださった渡邊氏。二人の言葉に勇気づけられ、学びとふれ合いのある花壇、子供に夢を広げる花壇となることを目指して動き始めたのです。

二つの自然体験ゾーン ふるさと花壇とビオトープ

昨年、学校の前庭には、地域の方々から宿根草の苗を分けていただき、グリーンキーパーの方々のご助力で『ふるさとの山野に自生する植物の広場』が完成しました。この広場で子供達は、季節ごとに優しく咲く花々を眺め、手に取り、草花に関心を高めました。花のあとにできる沢山の種をとり、自然の不思議をいっぱいに感じました。子供達は一人一鉢の花の世話をし、はじめは手に乗った苗が腕を広げるほどに大きく育つ様子を自分のことのように喜んでいました。また、花育てをすることは、近年少なくなった自然体験を子供達に呼び戻すこととなります。子供達は、時にはどろんこになり、自然と向き合い、発見や感動、学びがあります。21年度は、4年生が学校敷地を通る大久保新用水のせせらぎ広場に、水辺の生き物を復活させたいと提案しました。「せせらぎビオトープ」の計画です。現在、採集した黒メダカやトミヨが水槽に泳ぎ、一方で川幅を広げ石を敷き詰め、魚が自由に泳げる水辺をつくる活動が進んでいます。このように大久保小学校では、二つの自然体験ゾーンと花育てで本物の自然体験ができます。子供たちが、これらを材として遊んだり、学んだりできることを大変嬉しく思います。

本校児童は学校の自慢を、「花壇と仲良し活動」と言います。児童会テーマは「勇気パワー全開！輝け大久保っ子」として縦割りの仲良し活動を展開し、関わり合って元気いっぱいです。

「ふるさと自慢」の花壇 完成！

総合的な学習の時間に、子どもたちは願念坊祭りが地域の自慢であると語りました。そこで、今年の花壇は、願念坊の屋台を模した檜ひのきを中心に『大すき大久保！四季を彩るふるさと花壇』をテーマとしました。檜には、地域の方から六角の木製のプランターに石を配し、子供達の幸せを願って宿根草の寄せ植えをプレゼントしていただきました。

四方の山は、3年生は春を黄色やピンクの花々で表します。2年生が夏を、アゲラタム、ニチニチソウの青・白で表します。4年生は秋を、赤や黄色のマリーゴールドやジニアなどで表します。5年生は冬をベコニアやトレニアの白で表しています。6年生のプランターを内側に並べました。六角の木製プランターには、『はるかちゃんのヒマワリ』が4つのプランターに広がり、黄、青、赤、白の花で囲んでいます。このヒマワリは、阪神淡路大震災で亡くなったはるかちゃんの命を伝えるように本校の西側の農園でも咲いています。周辺の地植え花壇は、主に栽培委員会の子供達がグリーンキーパーの方々のご指導で世話をしています。地域の桜の名所「塩の千本桜」や「神通川」をイメージして楽しく植栽しました。地域の花壇から分けていただいたアガパンサスを背景とし、フーセンカズラやルコウ草がグリーンネットとなり、夏の暑さを和らげているようです。



地域の方に感謝し、共に歩む

今年、子供達はグリーンキーパーの方から優しさと共に確かなアドバイスをいただき、心強く、迷わず能率良く花壇作業が進みました。完成後、地域の方々にも見ていただき、喜んでいただきました。大久保小学校の子供達は、大久保地区が大好きです。それは、地域の方々と触れ合い、自分が大事にされている実感があるからです。まだまだ不十分ですが、花壇活動の成果を以下にあげてみます。

- ①花壇や栽培等の自然体験により、子供たちは感動し、多くのことを学んだ。
- ②目指す花壇の実現のために、子供たちは、夢をふくらまして協働し、協力性を育てた。

また、花壇活動で地域の方々と知り合いになり、「ふるさと学習」で指導者となって協力していただく機会が増えています。大久保地区は博物館のようです。今後とも、本校が地域の教育力をいただきながら安らぎと潤いのあるオアシスとして発信することができるよう努力をしたいと思います。本校の教育活動に命や潤いを与えて下さる地域の皆様へ感謝申し上げます。今後とも共に歩みたいと思っています。

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン③

職藝学院
教授 渡邊美保子

日本の秋になじむ宿根草の組み合わせをご紹介します。写真1は、濃い桃色のシュウメイギク、黄色のヤナギバヒマワリ、紫色の宿根アスター、白のクジャクアスターです。

写真2は、手前から紫色の宿根アスター、

赤紫色のフジバカマ、白のクジャクアスターです。いずれも、日当たりが良く水はけのよ



写真1

い所を好みます。これらの組み合わせは、花壇の奥に配置することをお勧めします。春から初夏に咲く、草丈が60cmを超えない一年草などを組み合わせると手前に植えておきますと、春から秋の終わりまで季節をつなぐように花の彩を楽しむことができます。また、宿根アスターやクジャクアスターは植えてから2年目以降は、春先から初夏にかけてたくさんの茎が地際から群がるようにたくさん伸びてくるので、6月から勢いよく伸びてくるメヒシバなどの雑草が入り込まなくなります。

写真1の組み合わせでは、8月に入るとシ



写真2

ユウメイギクのつぼみをもった花茎が伸びてきます。シュウメイギクは開花するまでがとても長く、思わせぶりに丸いつぼみを膨らませてはいるもののいつまでたっても花らしきものが咲きません。一方、葉がわさわさと地面を覆ってゆき、葉っぱで蓄えた栄養分をつぼみに送っているのが良くわかります。秋に咲くイメージがありますが、お盆を過ぎると知らない間にぽつりぽつりと咲き始めています。9月に入ると紫色の宿根アスターがシュウメイギクを追いかけるように咲き始め、その後、ヤナギバヒマワリの茎が垂直に伸びてきます。濃い黄色の花が咲いてから、「あーそうだった、ここにも植えたんだ」と毎年思うくらい、咲きだすまではかわいそうなくらい存在感がありません。宿根アスター類は、草丈が1mを超えるものがあり、花が咲く頃になると花茎が噴水状に広がって暴れてしまいます。夏の終わりになると、窮屈そうに茎をたばねられた、まるで照る照る坊主をひっくり返したようなクジャクアスターをよく見かけますよね。これを解決する良い方法があります。5月下旬から6月始めぐらいまでに伸びた茎を半分ほど刈り込みますと80cmぐらいで開花し支柱が不要になります。もっと短く咲かせたい方は、5月中旬頃に刈り込むと良いでしょう。この方法は、草丈が高くなる宿根サルビア類でも応用できます。



花育てと私

花と緑の銀行立山支店
グリーンキーパー 村上京子



今年5月から三人家族の生活が始まりました。自営業で三人の男の子の子育ては大変でしたが、次第に自立していく我が子たちの後ろ姿に母親の一抹の淋しさが大きく募っていきました。今そのときがきたのですが、私の心は淋しくて悲しんではいませんでした。五月からグリーンキーパーステップアップ研修が始まり、富山オープンガーデンや花壇コンクールへの応募、ケーブルテレビの撮影等と重なり多忙だったのですが、子育ては終わったけれども花育てという仕事が私に残っていたと改めて気づかされたのです。この十数年間忙しい生活の中で私を癒し、元気を与えてくれた花たちに感謝した時でもありました。

子供の夏休みの自由研究を機会に始めた花育ては、まるで子育てと同じようでした。過保護や放任でもうまくいかないし悩んだり喜んだりの毎日でした。花も勉強と町民カレッジを受講したり、色々な教室に通ったり、イベントやコンテストに県の西へ東へ、ある時は県外へと花との関わりが増えてきた平成十三年にグリーンキーパーに登録されました。初めてのフラワーグリーンバスでの花壇巡りは感動の一言でした。自然風花壇へ移行した頃、樹木や石や流木、山野草や野菜まで植栽された花壇に驚き、花の世界にも流れがあることを知りました。早速店先の鉢やプランターを木製や素焼き鉢に変え、少しずつ自然風な花壇にしていきました。里芋や秋田フキやガマが花と一緒に並んでいる様子にとっても不思議がられましたが、今では沢山の人間に関心を持って見てもらえるようになりました。自分一人で楽しんでいた花作りが人をも楽しませる生活となり幸せを感じる今日この頃です。子供達はそれぞれ旅立ちましたが、私にはかわいい花という子供達が待っています。これからは一本一本の根や葉の声にも耳を傾け花育てを楽しんで行きたいと思っています。

〈お知らせ〉

「2009 ドングリ集め in 頼成」

森林浴を楽しみながら、ドングリを拾い、鉢植えにして持ち帰ります。キノコ汁もあります。

日時：平成21年10月10日（土）10：00～14：30

場所：県民公園 頼成の森（砺波市頼成）

参加費：無料



昨年のドングリ拾いの様子

キノコ狩りと観察会

頼成の森でいろいろなキノコを観察・採集し、食用キノコかどうかの見分け方を講師に教えてもらいます。

日時：平成21年10月18日（日）9：30～13：00

場所：県民公園 頼成の森（砺波市頼成）

参加費：無料 材料代 200円



秋を彩る花まつり

鮮やかな花色のものや香りのするものなど多様なゼラニウムを飾花し、いろいろな楽しみ方を提案します。

日時：平成21年10月23～25日 9：00～16：00

場所：花総合センター（無料）



表紙写真：ソバナ（キキョウ科ツリガネニンジン属）山地性の冷涼な気候を好む 魚津市
裏表紙写真：盛夏の片貝川支流 魚津市



盛夏の片貝川支流／魚津市

花と緑の銀行だより 173号

発行日 平成21年9月

編集発行 財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org>

富山県花総合センター

〒939-1383 富山県砺波市高道46-3

TEL 0763-32-1187

FAX 0763-32-1219

ホームページアドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1692/1692.htm>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

